

あいち山村振興ビジョン2030（仮称） 素案（概要版）



あいちの山里 & 離島

2025年8月
愛知県総務局総務部
市町村課地域振興室

○三河山間地域の現状【「あいち山村振興ビジョン2025」策定後の変化】

人口減少の加速や少子高齢化の進行など地域経営をより一層困難にする変化がある一方で、山村地域の魅力の再認識や山村地域が持つ特徴を活かした新たな価値の創造など、地域の活性化につながる変化も生じている。

1 人口減少の加速・少子高齢化の進行

- 人口減少が加速するとともに、少子高齢化が一層進行しており、地域の労働力・後継者、地域活動の担い手が不足している。その結果、地域の産業が衰退し、耕地面積の減少、森林の荒廃が進むとともに、集落の活動も困難になっている。



【対応】

- 地域における働く場を創出・確保することにより、若者の地域への定着を図る。
- 人口減少下でも機能する地域社会を構築する。

3 山村地域の魅力の再認識・新たな価値の創造

- 都市部に住む人々が、山村地域が持つ豊かな自然や文化、山村地域での暮らし方等の魅力を再認識することで、その魅力を体感するために、地域を訪問したり、地域に移住したりするという機運が高まっている。
- 企業等による社会貢献活動や大学等によるフィールドワークが盛んに行われており、その中で地域課題の解決に向けた取組も実施されている。
- カーボンニュートラル、ウェルビーイング等、山村地域が持つ特徴が新たな価値として創造されている。



【対応】

- 三河山間地域が持つポテンシャルを最大限活用することで、交流人口や関係人口を拡大するとともに、地域への移住や定住をさらに促進する。
- 企業等が実施する社会貢献活動や大学等が実施するフィールドワークを、三河山間地域に呼び込む。

5 DX・デジタル化やイノベーションの加速

- デジタル技術を始めとした新しい技術の普及が進んでおり、それらを活用することで医療や教育、農林水産業を始めとした様々な地域課題が解決する可能性が高まっている。
- アフターコロナにおいて、リモートワークやSNSを活用した情報発信など、新たなライフスタイルが定着している。



【対応】

- 加速するDX・デジタル化やイノベーションの流れを三河山間地域に呼び込み、地域課題の解決につなげる。

2 厳しい行財政状況や災害リスクの高まり

- 行政ニーズが複雑化、多様化する中で、行政における建築、土木、医療等に従事する専門職員に加え、デジタル化に対応する人材も不足している。
- 道路や上下水道など、人々の生活に必要な不可欠なインフラの老朽化が進んでいる。
- 近年の災害の頻発化、激甚化により、災害への対応力を強化する必要性が高まっている。



【対応】

- これまで継続的に実施してきた持続可能な行財政基盤の確立や災害対応力の強化に向けた取組を、今後も継続していく。

4 各種プロジェクトによる地域の活性化

- 東三河森林ルネッサンスプロジェクトや矢作川・豊川カーボンニュートラルプロジェクトなど、地域を取り巻く様々なプロジェクトが進展している。
- 2024年3月にトヨタテクニカルセンター下山が全面運用開始され、約3,000人の従業員が雇用されていることに加え、地域外からも多くの人が来訪する施設となっている。
- 2026年に開催される愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会において、豊田市下山地区及び新城市が競技会場として仮決定されており、国内外から多くの観光客が訪れる機会となる。
- 三遠南信自動車道東栄ICー鳳来峡IC間について、2025年度中の開通を目指して工事が進められるなど、大規模道路ネットワークの整備が進んでいる。
- 設楽ダムについては、2034年度の完成を目指し、2024年11月に本体工事着工式が執り行われた。



【対応】

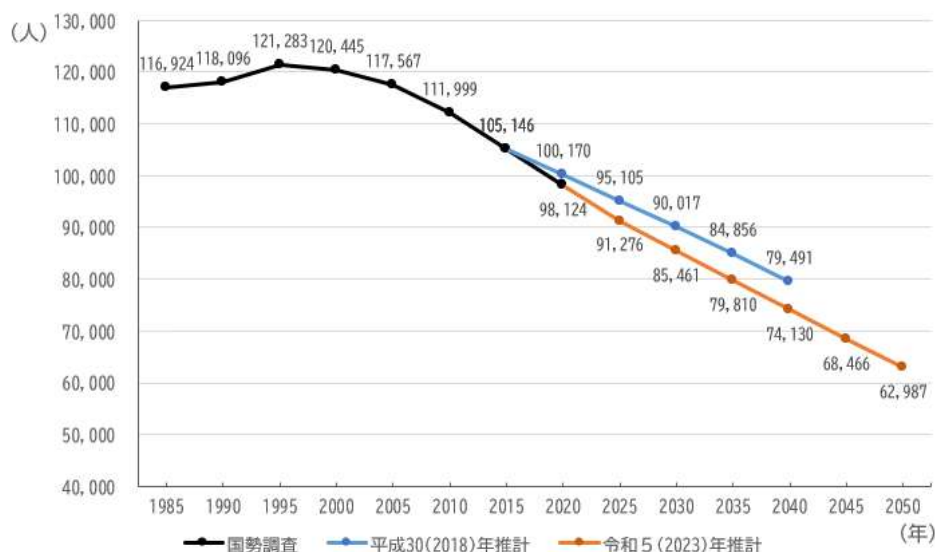
- 各種プロジェクトによる人の流れ・物の流れを始めとした新たな社会経済活動を取り込み、地域の発展につなげる。

○2040年頃の地域の展望

1 社会

- 地域の総人口は、国勢調査では1995年の約12.1万人をピークに減少を続けている。今後の推計では、2040年に約7.4万人になることが予想され、ピーク時と比べて39%程度減少することが見込まれる。
- 少子高齢化が一層進行し、推計では2040年に生産年齢人口は48%程度、老年人口は43%程度になることが見込まれる。特に、北設楽郡の町村においては、老年人口が50%を超えることが見込まれる。
- ライフスタイルの多様化が進み、未婚化や核家族化の影響も受け、単身世帯が増加していることが見込まれる。また、少子高齢化の進行に伴い、高齢者の単身世帯や高齢者のみの世帯が増加していることが見込まれる。
- 在留資格「特定技能」などの制度により、様々な国籍の外国人材の受け入れが進み、地域に住む外国人が増加している可能性がある。

図表：三河山間地域の人口総数の推移・推計



(出典) 総務省統計局「国勢調査」、
国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」、「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」
※阿崎市(一部)は阿崎市鶴田地区、豊田市(一部)は豊田市旭、足助、稲武、小原、下山、藤岡の各地区
※阿崎市(一部)、豊田市(一部)の推計人口は、総務省統計局「国勢調査」及び国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」を元に地域振興室で算出

2 経済

- リニア中央新幹線品川ー名古屋間の開業が見込まれる。
 - リニア中央新幹線や三遠南信自動車道を利用することで、首都圏からの移動時間が大幅に短縮されることから、人の動きが活発化し、都市部から地域への移住の増加や都市部との二地域居住の普及、関係人口の拡大が進む可能性がある。
- 設楽ダムが完成している(2034年度予定)。
 - 利水・治水の機能だけでなく、インフラツーリズムの対象として魅力ある観光資源となっている可能性がある。
 - 設楽ダムの完成に先立ち、関連施設として「山村都市交流拠点施設」の整備が予定されており、地域内外の人々の交流が盛んに行われていることが期待される。
- 三遠南信自動車道東栄ICー鳳来峡IC間が開通している(2025年度予定)。
 - 輸送時間が短縮されることによる沿線地域の産業の活性化や、広域的なアクセス性の向上による観光交流の活性化、救急搬送時間の短縮等を通じた地域の医療サービスの向上が期待される。

○「あいち山村振興ビジョン2030（仮称）」の目標

基本目標

将来にわたって活力あふれ、輝き続けるあいちの山里の実現

- ・ 三河山間地域は、水源のかん養や自然災害の防止等の機能に加え、近年では森林資源を活用したカーボンニュートラルの推進や豊かな自然環境を活用したウェルビーイングの向上等への関心が高まり、新たな価値が創造されている。
- ・ 三河山間地域は愛知県全体にとって重要な役割を持ち、その地域資源は県民全体にとって貴重な財産である。
- ・ しかしながら、この地域の人口減少・少子高齢化は一層加速しており、今後は担い手不足等により社会経済活動が維持できなくなることが危惧される。
- ・ このため、働く場の創出・確保による若者の地域への定着や、地域のポテンシャルを活用した交流・関係人口の創出・拡大を図ることにより社会経済活動の担い手を確保するとともに、加速するDX・デジタル化やイノベーションの流れを地域に呼び込むことにより、限られた担い手でも機能する地域社会を構築していく必要がある。
- ・ 加えて、設楽ダムを始めとしたビッグプロジェクトによる新たな社会経済活動を地域の発展につなげていく必要がある。
- ・ こうした様々な取組を実施することにより、人口減少に適応し、地域の社会経済活動を維持することで、将来にわたって活力あふれ、輝き続けるあいちの山里の実現を目指す。

取組の視点

①多様な主体との共創【コ・クリエイション】

- ・ 関係人口に加え、地域外の民間企業や大学、各種団体等との連携を拡大し、地域内外の多様な主体が、それぞれが持つ資源（人材、技術、資金等）を適切に組み合わせることにより、地域の課題を解決することを目指す。

②新しい技術やアイデアの積極的活用【イノベーション】

- ・ 新しい技術やアイデアをこれまで以上に積極的に活用することで、社会経済活動に変革をもたらし、地域の活力を高めることを目指す。

③環境変化への適応力強化【レジリエンス】

- ・ 人口減少や少子高齢化、市町村の厳しい行財政状況、災害リスクの高まりなど、様々な環境の変化に対する適応力を高め、SDGsの理念も踏まえた持続可能な地域社会を確立することを目指す。

○「あいち山村振興ビジョン2030（仮称）」の重点的取組事項

柱1 共創する地域をつくる

【取組の方向】

- 地域の社会経済活動の担い手を確保するため、関係人口を呼び込むとともに、地元愛を持って地域づくりに主体的に関わる「活動人口」の創出・拡大を図る。
- 加速するDX・デジタル化やイノベーションの流れを地域に呼び込むことにより、限られた担い手で機能する地域社会を構築する。

【主要な取組】

- 地域の担い手となる関係人口の創出・拡大と受入促進【新規】
- 地域活動の担い手発掘・育成支援と地元愛の醸成【新規】
- 地域社会への外国人住民の参画や地域における交流・相互理解の促進【新規】
- 企業・大学等と連携した新技術の実証・実装に向けた取組の推進【新規】
- 教育環境の整備と県立高等学校等の地域連携の推進

柱2 賑わいのある地域をつくる

【取組の方向】

- 豊かな自然環境や暮らし、文化など、三河山間地域の魅力を最大限活用し、交流人口を拡大する。
- 森林をはじめとした地域資源が持つ新たな価値を活用することにより、地域の稼ぐ力を高める。

【主要な取組】

- 森林資源等を活用した地域の稼ぐ力の向上【新規】
- 地域の資源を最大限に活用した交流人口の拡大推進
- 伝統文化の保存・継承と発信
- 各種スポーツ大会を契機とした交流の拡大
- 愛知県産ジビエ等の利用促進

○「あいち山村振興ビジョン2030（仮称）」の重点的取組事項

柱3 働き、暮らせる地域をつくる

【取組の方向】

- ・ 地域における働く場を創出・確保することにより、若者の地域への定着を図る。
- ・ 就業支援を充実することにより、農林水産業の就業者を確保する。
- ・ 地域への移住・定住を更に促進する。

【主要な取組】

- ・ 移住・定住、二地域居住の促進【新規】
- ・ 既存組織との連携によるなりわい支援の仕組みづくり
- ・ 地域を越えた人材のネットワークの形成
- ・ 地域産業の活性化に向けた事業創出や円滑な事業承継の支援
- ・ 農林水産業の担い手確保・育成
- ・ 農林水産業の競争力向上

柱4 安全安心な地域の未来をつくる

【取組の方向】

- ・ 将来にわたって安全安心に暮らせる地域社会を維持する。
- ・ 公共交通や交通基盤、情報通信基盤、子育て環境、医療等を確保する。

【主要な取組】

- ・ デジタル技術を活用した持続可能な行政運営の推進【新規】
- ・ 持続可能な行財政基盤の確立
- ・ 地域の実情に合った公共交通の維持・確保への支援
- ・ 社会資本整備等に対する支援
- ・ 情報通信基盤の整備・運営に対する支援
- ・ 大規模災害への備え
- ・ 広域交通基盤の整備・強化
- ・ 子育て支援の充実
- ・ 質の高い医療等を提供する体制の確保

柱5 地域の自然を守り、育てる

【取組の方向】

- ・ 多面的機能を持つ森林・農地等の保全・整備を推進する。
- ・ 自然環境・生物多様性の保全を推進する。

【主要な取組】

- ・ 森林・農地等の保全・整備
- ・ 鳥獣被害対策の推進
- ・ 自然環境・生物多様性の保全、利用の促進